

～教員インタビュー（利島編①）～

利島村立利島小中学校 主任教諭

1 島に赴任しようと思ったきっかけを教えてください。

ドバイ日本人学校で3年間勤務する中で、日本の地域に根差した教育に挑戦したいという思いが強くなりました。利島は自然豊かな環境だけでなく、人と人とのつながりが温かく、地域全体で子どもを育てている魅力があります。家族とともに暮らしながら、地域と協働した教育を実践したいと考え赴任を決意しました。

2 児童（生徒）の人数が少ないことについて、どう感じていますか？

一人一人の個性や成長を丁寧に見取ることができる環境だと感じています。学習面だけでなく生活面や興味関心まで深く理解しながら関わることができ、子どもの変容を実感しやすいです。また異学年との交流も多く、学校全体で子どもを育てる温かさがあります。

3 島の学校と内地の学校で違いがあると感じることは何ですか？

地域との距離の近さです。地域の方々が学校教育に協力的で、授業の中で直接お話を伺ったり施設を見学したりする機会が豊富にあります。教室だけでは学べない本物の体験が日常的にできることは、島ならではの大きな魅力だと感じています。

4 仕事や日常生活において、赴任前のイメージと違ったことを教えてください。

赴任前は不便なことが多いと思っていましたが、実際には地域の方々の支えがあり安心して生活できています。また自然が豊かなだけでなく、人とのつながりが濃く、困ったときに助け合う文化が根付いていることに驚きました。温かい人間関係が日常の安心につながっています。

5 島だからできたことがあれば教えてください。

総合的な学習の時間では、村長さんや農家さん、漁業関係者の方々へのインタビューを通して、島の未来について考える学習を行っています。地域全体が教材となり、

子どもたちが本物の人や仕事に触れながら学べることは、島だからこそ実現できる貴重な教育活動だと思います。

6 日常生活での買い物はどうしていますか。

日常的な食料品や生活用品は島内の商店を利用しています。必要に応じてインターネット通販も活用しています。買い物の際には地域の方との会話が生まれ、生活の中で自然と交流が広がります。単なる買い物ではなく、人とのつながりを感じられる時間になっています。

7 休日は、何をして過ごしていますか？

家族で島内を散策したり、海や山など自然豊かな環境を楽しんだりしています。また地域のイベントや行事に参加することもあります。子どもたちと一緒に島の魅力を発見する時間が増え、家族で過ごす時間の大切さを改めて感じています。

8 島の学校に来て、最も印象に残っていることを教えてください。

地域の方々が子どもたちの成長を本当に温かく見守ってくださっていることです。学校だけでなく地域全体で子どもを育てていることを日々感じます。多くの大人との関わりを通して子どもたちが成長していく姿は、とても印象的です。

9 島での生活や仕事の一番の魅力を教えてください。

人とのつながりを身近に感じられることです。子ども、保護者、地域の方々との距離が近く、自分の仕事が地域の未来につながっていることを実感できます。教育活動が学校の中だけで完結せず、地域と共につくられていることに大きなやりがいを感じています。

10 島での生活や仕事の一番の魅力を教えてください。

家族帯同には不安もありましたが、それ以上に得られる経験があります。家族で自然に囲まれた生活を楽しみ、子どもたちは地域の中で多様な世代と関わり、保護者も地域とのつながりを築くことができます。家族みんなで新しい挑戦を共有できることは、島しょ勤務ならではの大きな魅力です。また、地域の行事や交流の機会も多く、子どもたちは安心してのびのびと成長しています。家族で地域の一員として暮らせることに大き

な魅力を感じています。

Ⅱ 島への赴任を検討している方に一言お願いします。

島での生活には不安もあるかもしれませんが、それ以上に多くの学びと出会いがあります。自然の豊かさだけでなく、人の温かさや地域とのつながりを実感できる環境です。特に家族帯同での赴任は、家族にとっても貴重な経験になります。ぜひ挑戦してみてください。

～教員インタビュー（利島編②）～

利島村立利島小中学校 主任教諭

1 島に赴任しようと思ったきっかけを教えてください。

元々自然豊かなところが好きで、そういう場所で暮らしてみたいと思ったから。伊豆諸島や小笠原諸島について調べそれぞれの島の様子を知り、東京都の教員であり続けながら、このような場所に住まいを移せることがとても魅力的でした。

2 児童（生徒）の人数が少ないことについて、どう感じていますか？

児童・生徒が少なく、その分教員との距離感が近いところが気に入っています。教職員も子供たちもお互いを認識し合い、互いに名前呼び合える距離感は、アットホームで心地良いです。児童・生徒一人一人と会話する機会が多くあることも嬉しいです。

3 島の学校と内地の学校で違いがあると感じることは何ですか？

関わる人たちとの関係が一つではないことです。内地の学校であれば、「同僚は同僚」、「保護者は保護者」であることがほとんどですが、島では「同僚」「保護者」「児童・生徒」であり、「同じ地域に住む仲間」でもあります。役場やお店では保護者の方が働いていますし、教職員住宅に住んでいるのであれば同僚がご近所さんです。そのため、私生活での関わりが多くあります。

4 仕事や日常生活において、赴任前のイメージと違ったことを教えてください。

「思ったよりも快適に生活できる」ということです。インターネットでの買い物はほとんど届きます。内地に比べ送料がかかることがあったり、届くまでの期間がかったりはしますが、「そういうもの」だと割り切った今は不便に感じることはありません。

また、想像以上に内地に気軽に行かれることも意外でした。不在の期間の仕事を調整したり、フォローしてくれた方にお礼を伝えたり、教職員間で「当たり前の礼儀」を大切にしながら協力し合える環境は有り難いです。

5 日常生活での買い物はどうしていますか。

「歩いて栈橋に行って気軽に釣りができる」「自分の住んでいる島から他の島に遊びに行かれる」この二つは内地に住んでいたらなかなかできなかったことだと思うので、島に住んだからこそその休日の過ごし方だと思います。生活の中に新しい楽しみが増えました。

6 島への赴任を検討している方に一言お願いします。

私は「島の公募にチャレンジしてよかった!」と思っています。自分にとって「自然豊かな環境」「子供たちや保護者、同僚との近い距離感」はとても心地よいものでした。

島での環境を「不便」と感じるか「豊か」と感じるかは人それぞれだと思うので、ぜひご自身の「やってみたい」「行ってみたい」の気持ちを大切に、みなさんの生活が豊かになることを願っています。「島暮らしを楽しむ仲間」が増えたら嬉しいです。